

1 単元名

合唱の表現を楽しもう 「COSMOS」(ミマス作詞・作曲 富澤 裕編曲)

2 単元の目標

- 主体的、協同的な学習を通して合唱の表現を楽しもう。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい合唱表現を工夫して歌う。 【音楽表現の創意工夫】
- 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けよう。 【音楽表現の技能】

3 単元計画 (全6時間)

次時	☆ 主な学習活動 協同的探究学習	協同的探究学習場面における ○ 指導内容 ● 留意点
1	【楽曲の仕組みを理解し、音程を意識して歌う】	
2	【自分の声に合ったパートを選び、範唱 CD を用いて練習したり、全体で合わせたりして、合唱の楽しさを味わう】	
3	【ユニゾンとハーモニーの響きに気を付けながら合唱する】	
4	【声部の役割を生かして、響かせながら合唱する】	
4 5	☆【言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性を関連づけて、合唱表現を工夫することができる】	○合唱を仕上げるために大切なことを思い起こし、より良い表現に結びつけられるよう指導する。 ●言葉の抑揚と旋律線の方向性を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じしながら、音楽表現を工夫できるようにする。(楽譜・ワークシート等)
5 6	☆【相手に伝わる合唱表現を工夫する】 ○思いやイメージが相手に伝わるよう、音色や旋律のまとまりを視点にして発表したり、聴き合ったりする。	○歌詞が表す情景や心情を生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組ませる。 ●歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現をしようとする姿勢がパート内で共有できているかに着目させる。

4 指導上の立場

○単元観

「合唱の表現を楽しもう」は、混声合唱に取り組む中で、合唱表現の豊かさや美しさを感じ取らせ、合唱の楽しさを味わわせることをねらいとしている。また、第1学年、第2学年の学習における合唱活動を基盤として、さらに曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、豊かな合唱表現ができるようにすることを意図している。

曲にふさわしい表現をするためには、楽譜に記されている用語や記号の意味を理解するだけでなく、作曲者が意図していることを探ったり、曲に対するイメージをもちながら、どのように歌うとそのイメージに近づけられるかを試行錯誤したりして工夫することが大切である。

本教材「COSMOS」は、優しく美しい、なめらかな旋律と、宇宙を題材としたスケールの大きい歌詞が魅力的な曲である。混声3部合唱曲で、歌詞の内容や旋律の動きからイメージを膨らませたり、音楽を形づくっている要素を意識したりしながら、表現を工夫したり、歌うことを楽しんだりすることができる合唱曲となっている。

○生徒観 (既習事項と身に付けている力)

生徒は、これまでに合唱活動を通して、1つの楽曲をつくっていくことの楽しさや、友達の声と自分の声が合わさった際の心地よさを味わってきている。どの生徒も向上心があり、運動会などの行事を通じ、全員で頑張ろう、楽しく歌おうという意識が表れている。誰かがつまづいている時には、優しく声をかけ合い、温かい雰囲気の中で授業が進められている。

○指導観 (協同的探究学習場面の位置付けとそのねらいについて)

週に1回の授業では、自分のパートを覚えて歌うことが精一杯という内容に陥りがちであり、音楽のテクスチャーや構成、ハーモニーなどを味わうことは難しい。音楽表現を深めていく中で、協同的探究学習を通して、少しでも音楽の持つ素晴らしい力に気づき、それが個々の技能の向上につながることで、自己肯定感が増す活動になればと思っている。

5 本時案 (第4次 第1時)

(1) 本時の目標

言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性を関連づけて、合唱表現を工夫することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援
<p>導入問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声練習をする。 合唱曲を仕上げる際に大切なことは何か。 	<p>導入問題のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声練習で、姿勢、口の開き方、腹式呼吸など歌唱に必要なことがらを確認した。 歌詞の内容を伝えるための工夫を確認した。
<p>個別探究</p> <p>(ア) A、B の部分を読んでみる。 (イ) 言葉のつながりを考える。 (ウ) 言葉のまとまりで考える (エ) 言葉の抑揚で考えてみる。 (オ) 言葉の抑揚と旋律線で考える。</p>	<p>考えを引き出す工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現ワークシートにもある音楽の要素について、シートとは別に「工夫カード」として黒板に貼りだした。 小節や言葉の句切りで考えるように促した。 朗読や口ずさみながら考えるよう促した。
<p>協同探究</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">表現の工夫</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>言葉の抑揚による</p> <p>ソプラノ</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の抑揚にそって盛り上げる→楽譜に記入 笑顔で歌う。 <p>アルト</p> <p>A ・=の所は、柔らかく歌う。 ・~の所は、柔らかく抑揚をつけて歌う。</p> <p>B ・サビにつながる所は、力強く歌う。 ・「光の～」の所は、明るく歌詞を伝えられるようにうたう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>旋律線の方向性による</p> <p>テノール</p> <ul style="list-style-type: none"> 音がだんだん高くなっているところは、クレッシェンドする。 音がだんだん低くなっているところは、デクレッシェンドする。 楽譜へ記入する。 正しい音程で歌う。 よい姿勢で歌う。 </div> </div> </div>	<p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> パート毎に、記入したホワイトボードを掲示したり、記号やメモを記入した楽譜をプロジェクターで提示したりしながら発表させた。 <p>関連付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の抑揚に沿って、強弱やクレッシェンドなどの記号も自然に付けたくないと関連付けた。 <p>本質追究</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の抑揚に合わせた旋律線の方向性も作曲者がきつと意図して表現し、合唱として伝える時にも、そのことを意識することでより伝わる音楽になるという共通点を引き出した。
<p>展開問題</p> <ul style="list-style-type: none"> A、B の表現についての意見交流を基に C の部分について関連付けて表現の工夫をしてみよう。 	<p>展開問題のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> C (時のながれに生まれた者なら、一人残らず幸せになれるはず…) というメインテーマに向かって、より表現が深まるよう言葉を大切に、旋律線の方向性にも着目して表現を工夫できるように設定した。

<p>評価</p> <p>A 規準</p> <ul style="list-style-type: none"> 協同探究で出た考えを参考にしながら、自分の言葉で、より音楽の内容が深まる表現方法について提案できる。 自らパートの中でふさわしい表現を目指した歌い方ができる。 <p>B 規準</p> <ul style="list-style-type: none"> 協同探究で出た考えを参考にしながら、言葉の抑揚に合わせて旋律がつくられていることに気付き、考えを伝える事ができる。 言葉のまとまりごとに、語るように歌って見たらフレーズもまとまって、流れるように歌うことができるのではないかとこのことをパートの中で伝える事ができる。
